

令和四年度 国語 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

一 (一〇〇点)

問一 ① ろてい ② 投稿 ③ 承認 ④ ちょうしゅう ⑤ やっかい ⑥ ひんばん ⑦ ぎが ⑧ そくしん ⑨ 途端 ⑩ 忘却 ⑪ 忠実 ⑫ 熱烈 (二十四点)

問二 ア 遠慮なく、イ もと ウ 様々な手段を使って エ 急進的 オ 二つの意味を持つ (二十点)

問三 コミュニケーションとは根拠のないものであり、要は成立しているから成立しているとかいいようのない危ういものであるということ。(十六点)

問四 聞いている人は誰もいないにもかかわらず、熱心に話している状況。(十五点)

問五 ツイッターにおいては、ある集団全員が共通に見ているタイムラインが存在しないため、議論の参加者は異なった聴衆に話しかけており、発言の宛先がその発言を聞いてくれるとも限らないので、見かけ上議論が成立していたとしても、そこに共通の前提はなく、それぞれの勝手な独り言が集積されているにすぎないということ。(二十五点)

二 (六〇点)

問一 乱るらむ (五点)

問二 打ち消し推量の助動詞「まじ」の終止形 ベし (十点)

問三 知っている人も仕えているようですが (十点)

問四 男が、式部卿宮の姫君の邸の女房を、誰ともよくわからないのに、童の話の聞いたただけですぐに手紙を送ろうとしているから。(十点)

問五 男の心 (六点)

問六 あらむ (五点)

問七 一筋に一人の女性を思うことをしないあなたは、風が吹くたびに乱れる青柳のように、女の噂を聞きたびにさぞや心を乱しているでしょう。(十四点)

三 (四〇点)

問一 これをたのんでうたばうしのくわんがいとる (八点)

問二 趙高が悪質なので、特に作りたての大きな棒を使ってこらしめることを意図している (九点)

問三 毘沙門天王の入れ墨をたたいて消えてしまえばそこまでとし、三十回余りたたいたのが趙高は死ななかつた (前半は、命が尽きればそこまでとし、でも可) (十点)

問四 趙高は信仰心につけこみ、入れ墨の毘沙門天王を利用して罰を受けずに暴れたうえに、痛い目にあっても今度は入れ墨の補修にかこつけてお金をせびろうとしていて、しぶといこと。(十三点)

\* 課題文の日本語訳は『酉陽雜俎』第二卷 (東洋文庫三八九、平凡社、一九八〇) 八三頁を参照のこと。